

## バッチ処理の機能の作成に対して取り組んだ内容

このシステムでは、定期的に必要な処理（例：たまった一時ファイルの削除、署名鍵の更新など）を行うバッチ処理を設ける予定です。

この資料の目的は、実装予定のバッチ処理の内容をプレゼンする事です。  
なお、未実装の為、今後の開発方針の変更によっては内容が変わる場合があります。

### 目次

1

一時ファイルの削除

2

JWTトークン署名鍵の更新

3

データベースとファイルサーバーの整合性確認

## 一時ファイルの削除

このシステムでは、必ず一時ファイルは使用后削除するように実装してはいますが、**JVMの異常終了時**などに一時ファイルが残ってしまう場合があります。

定期的にバッチ処理を実行して、一時ファイル用のディレクトリを掃除することで、  
不要な一時ファイルを削除し、ローカルファイルの圧迫を防ぐことができます。

## JWTトークン署名鍵の更新

JWT認証の欠点として、**署名鍵が漏洩したらシステムのすべてが危険にさらされる事**です。

そのため、使用する署名鍵を定期的に交換し、漏洩した際にリスクを減らす必要があります。

定期的にバッチ処理を実行して、署名鍵を自動的に交換し、セキュリティの確保を行います。

## データベースとファイルサーバーの整合性確認

このシステムでは、データベースとファイルサーバーの不整合を起こさないように実装していますが、

**JVMの異常終了時**などには整合性が確保されない場合があります。

定期的に整合性を確認し、不整合なデータを削除することで整合性を保ちます。

